

荒小の子

学校だより **No.12**
 青森市立荒川小学校
 令和7年3月18日発行

全校児童数 **152**名
 男子 **77**名
 女子 **75**名

◆教育目標◆

○学び合う子
 ○思いやりのある子
 ○健康でたくましい子



幸せの定義

校長 栃丸 庄司

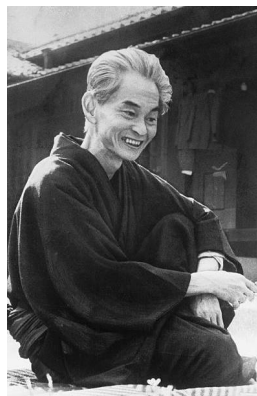
先日、学校運営協議会（いわゆるコミュニティ・スクール＝CS）の席で、ある理事さんからこう指摘されました。「校長から出された今年度学校スローガンに掲げた『幸せ』なんです、いいんですけど…。幸せって定義そのものが難しいのではないのでしょうか？ 捉え方にも人それぞれってところもありますしね…。」

至極ごもっともです。仰るとおりです。それでも敢えて、校長はこの言葉（幸せ）を選んでいました。受け取り方・感じ方が人それぞれなのに加えて抽象的で実感がなく、且つ耳障りだけは良さげな、そして、この抽象的かつ受け取りに個人差のあるこの言葉を、今後も使用するつもりでいます。そこでCS理事の方々や保護者の皆さまと互いに主観を出し合い、そこから客観的な結論を導き出せたらと思います。

究極のお話をします。人はなぜ、この世に生まれてきたのでしょうか。私は、あなたは、なぜ、この世に生を受けたのでしょうか。この時点で様々な意見が噴出してまとまりそうにありません。ですが、その中でも世間一般で最も指示されている言葉がこれです。

- ①「あなたは幸せになるために この世に生まれてきた 」そして同じく上位に食い込むのが、
 ②「あなたの手（力）で 誰かを幸せにするために あなたは生まれてきた 」です。

人間として人生の目的を問われるという究極の問いに関して、人類が長い歴史の中で導き出した答えは…いくつもあるのですが、メジャーな回答のうちの2つがこれです。多くの人達が納得し、共感し、語り継いできた結果です。「幸せ」に対してのイメージや理想は人それぞれ異なるのに、あたかも全人類の生きる目的として、この「幸せ」という言葉は使われています。それだけ人々を引きつけ、魅了しています。そして、「幸せ」という概念や理想形は人の数だけあります。ですが、学校のシンボリックな言葉として使っているように、「自分さえ良ければいい」的な発想でいる限りは、決して辿り着くことはない境地であると私的には思っています。



幸せ名言集 3月版（坂本T、中村T、新谷Tが推しています）
 一生の間に
 一人の人間でも幸福にすることができれば
 自分の幸せなのだ
（川端 康成）

川端 康成(かわばた やすなり) 1899-1972

日本の小説家・文芸評論家。1968年に日本人初のノーベル文学賞を受賞した。大正から昭和戦前・戦後にかけて活躍した近代日本文学を代表する作家の一人。代表作には「伊豆の踊子」「浅草紅団」「雪国」などがある。